

ポストコロナで主流となりうるファミリーカンパニー

Fuさん

コロナウイルスによる緊急事態宣言で、ビジネスにも大きな変化がありますよね。

元に戻る事が難しいとは、具体的にはどういうことを言うのですか？

他には、何かありますか？

表題にあるように、ポストコロナでファミリーカンパニーが主流となりうるとは、どういうことですか？

巷では、プライベートカンパニーという名称をよく耳にしますが、

税理士のJunさん

在宅ワークやズームによるネット会議など、ビジネスの在り方が今までと大きく変わることとなりました。大きな価値観の変換があったわけで、このように変わった後に、元に戻ることは難しいと思います。

コロナによる切羽詰まった状況の中で、テレビなどのマスコミによる画一的な情報だけでなく、ユーチューバーなどSNSの担い手による「**ネットでの動画配信**」がより一層進み、情報の取捨選択が当たり前のように行われるようになりました。個人のパーソナリティに応じて主体的に情報を取得するようになったこと、これは以前と比べると非常に大きな変化です。

ポストコロナの時代でも、個人がネットを通じて、自分に合った情報をより積極的に取得するようになり、その需要の高まりに応じ、「**ネットでの動画配信**」がより一層盛んになるということは間違いのないでしょう。

通勤による職場ワークから「**在宅ワーク**」に変わったこと、これはある程度、ポストコロナで元に戻るとは思いますが、従前の固定観念が打ち砕かれ、価値観に大きな変換がもたらされることとなりました。

また、コミュニティの主体が職場からネットになる傾向がより強くなりました。言い換えれば、職場コミュニティの弱体化が進むと共に、「**ネットコミュニティ**」により重点が置かれるようになりました。

私は、昭和60年の春に社会人となりましたが、当時はバブル経済の真っ只中、仕事帰りに職場の仲間と飲みに行くことが当たり前でした。当時は終身雇用と言われていた時代で、職場は家族以上のコミュニティとして存在していました。しかし、平成の初めにバブルが崩壊し、職場のコミュニティが徐々に薄れていきました。そしてとうとう、この緊急事態宣言の下で、自宅に居ながらにしてネットでコミュニケーションをとるようになりました。これは社会の在り方として大きな変化だと思います。

今後、特定のある業種は衰退せざるを得なくなると思いますが、その方々が活路を見出す動きと相まって、ポストコロナの時代には、上記のような社会の変化に応じた大きな動きがあるのではないのでしょうか。

「**ネットでの動画配信**」「**在宅ワーク**」「**ネットコミュニティ**」という要素を含んだビジネス、更には、これらの要素を兼ね備えたビジネスが益々盛んとなっていくでしょう。例えば、ユーチューバーなど、3つの要素を兼ね備えたビジネスを、フリーランスや会社形態で行う人が今後も増えてくるでしょう。

ファミリーカンパニーのメリットについては、別に述べたいと思いますが、フリーランスとして個人で事業を行う人が増えると共に、合同会社のように簡単に設立できる会社を活用する手法も多くなると思います。

自宅を本店とした会社を設立し、自宅に居ながらにして、ネットを中心としたビジネスを行う人が増えてくると思いますが、そのときに頼りになるのが家族の存在です。

例えば、ネットを駆使することは、親よりも子の方が得意なケースが多いのではないのでしょうか？

家族で知恵を出し合い、助け合いながら会社を運営していくとき、**プライベートカンパニー**というよりも**ファミリーカンパニー**という呼び名の方が実態に合っているのではないのでしょうか？

